

2003年度英語教育プログラムの結果と分析

高橋 俊章

1. TOEIC IPテストの実施とその結果

H15年度は、6.7-8と8.4に共通教育が担当する TOEIC IP テストを、そして、11.8, 12.13, 2.14に経済学部 TOEIC 委員会が主催する TOEIC IP テストを行った。以下は平成15年度入学者の試験結果（最終）である（注：山口大学学務部学務課共通教育係作成資料）。

この表から、H14年度と同様かそれ以上の結果をH15年度で得ていることがわかる（H14年度の山口大学1年生の平均点（通年）は420.5であり、H15年度では428.1であった）。このことは、統一テキスト、統一シラバスを利用した英語の授業（TOEIC準備、英語基礎、など）が一定水準の成果を安定して達成していると考えられる。とりわけ「TOEIC指導」の合格認定基準の300点を、H14年度とH15年度の入学者のほぼ全員（それぞれ、全体の97.6%、96.4%）が1年間で達成していることがそのことを示していると言えよう。

平成15年度共通教育TOEIC試験結果表(最終)

《平成14年度入学者》

学部等	入学者数	区分	受験者数	未受験者	平均点	最高点	最低点	~295	300~395	400~495	500~595	600~	備考
人文学部	203	1年	199	4	471.6	720	245	1	31	103	48	16	
		2年	201	(1) 2	475.4	735	245	1	31	99	51	19	
教育学部	252	1年	248	4	409.7	700	225	7	117	89	28	7	
		2年	249	(2) 3	412.7	700	225	5	117	91	28	8	
経済学部	398	1年	393	5	418.0	630	195	7	143	194	46	3	
		2年	393	(1) 5	422.7	675	240	(1) 4	138	199	48	4	
理学部	244	1年	240	4	390.8	630	155	8	123	93	14	2	
		2年	240	(2) 4	397.8	630	155	4	118	98	18	2	
医学部	85	1年	85		581.6	875	400			13	35	37	
		2年	85		584.1	875	410			12	35	38	
保健	120	1年	120		476.2	635	355		6	77	33	4	
		2年	120		478.4	635	355		2	81	33	4	
工学部	557	1年	547	10	394.7	885	205	18	296	187	37	9	
		2年	550	(3) 7	396.1	885	205	14	296	192	39	9	
夜間主コース	63	1年	60	3	344.1	475	220	8	40	12			
		2年	60	(1) 3	348.8	475	220	7	40	13			
農学部	105	1年	105		428.8	655	300		37	45	21	2	
		2年	105		431.7	655	300		36	45	21	3	
獣医	30	1年	30		559.3	820	410			5	18	7	
		2年	30		559.3	820	410			5	18	7	
合計	2,057	1年	2,027	30	420.5	885	155	49	793	818	280	87	
		2年	2,033	(10) 24	426.8	885	155	(1) 35	778	835	291	94	48

(注1) 区分に関して、1年については、1年次終了時におけるTOEICテストによる得点分布である。2年については、1年のものに累加して、今年度実施した共通教育英語部会主催及び経済学部TOEIC実行委員会主催のTOEICテストによる得点分布である。

(注2) ()については、未受験者及び300点未満の学生における離籍者(退学者及び除籍者)の人数であり、内数である。

(注3) 備考の右下部の数字については、未受験者及び300点未満の学生のうち、当該の離籍者を除いた人数である。

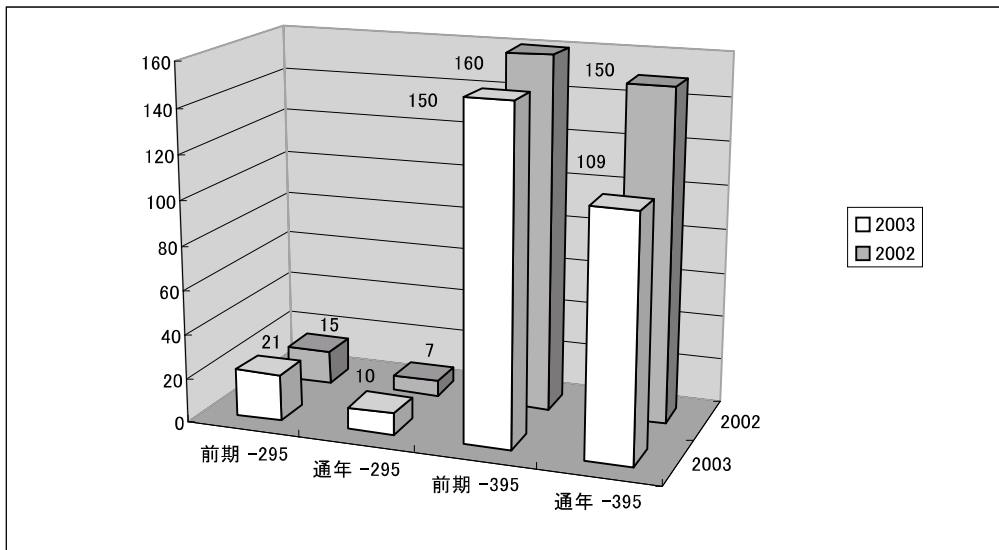
2. 新カリキュラムの必要性

2.1. 新カリキュラムに伴う「TOEIC指導」の認定基準の変更について

「TOEIC指導」の認定基準が、山口大学の学生が卒業までに獲得しなければならない英語能力の実質的な最低基準になっていることを考えると、ほとんどの学生が大学での英語の到達目標を1年という短期間に達成してしまったことになる（上記の表参照）。しかし、TOEIC300点は、英検準2級レベル（高校中級程度）に相当する到達目標水準であること（http://www.toeic.or.jp/toeic/data/pdf/TOEIC-STEP_2001.pdf）、そして、1年の終わりにほぼ全員が300点を獲得し、卒業まで3年の在学期間があることを考えると、350点を出発点にしてさらに上を目指すことは可能であり、必要であると考えられた。そのため、一部の学部・学科を除いて「TOEIC指導」の認定基準を350点に変更することになった。

また、より高いレベルの目標を設定することは、それが十分に達成可能な範囲にある限り、学習者の真摯な取り組みを促し、その結果として、より高いレベルの英語能力を獲得することにつながると期待できる。

実際、TOEIC IPテストの平均点（6月）の経済学部の学生の平均点はH14年とH15年は同じ（418.8点）であったのにも関わらず、395以下の学生数はH15年度の方が41人も少なかった。このことは、経済学部のH15年度入学生からTOEIC400点以上の取得が卒業要件となり、彼らの英語能力に関する到達目標が300点から400点となったことと無関係ではないであろう。



2.2. English Speakingの新設とComprehensive Englishの再配置

リスニング能力とリーディング能力に関しては「TOEIC準備」を通じて、文法的知識に関しては「英語基礎」を通じて、その獲得が図られてきた。スピーキング能力に関しても、Comprehensive English (By Native Speakers) を通じてその獲得が図られてきた。しかし、Comprehensive Englishの授業で扱う内容はやや高度で TOEIC 350-395のレベルの学生には適

していなかった。そのため、新カリキュラムでは、愛媛大学や鳥取大学の英語コミュニケーションクラスをモデルとして、もっと身近なトピックを扱い、基礎的な英会話能力を養成する English Speaking というクラスを新設した。すでに愛媛大学や鳥取大学の事例が示しているように、スピーキングの授業は、スピーキング能力の向上だけでなく、時として消耗しがちな英語学習への意欲を高め、留学などへの動機となることが期待できる。

一方、愛媛大学や鳥取大学の事例をモデルとしながらも、さらに、WBTによる自習(e-learning)をセットにすることにより、「楽しく、満足度は高いが英語の能力の向上には役立たない」との批判にも応えようとしている。

授業中に行う	スピーキングの練習
授業外に行う	WBT (e-learning)

また、上記変更と合わせて、Comprehensive English (By Native Speakers) [1] や [2] で扱う教材のレベルを考慮し、どちらも展開1の科目として再配置した。また、対象となる履修者の英語能力レベルが分かりやすいように名称を変更し、また、能力別クラス編成とした。これにより、スピーキング能力関係の授業は、English Speaking, Comprehensive English Fundamental, Comprehensive English Pre-Intermediate の3つのレベルのクラスが実現できることになり、学生の幅広い能力レベルに対応することが可能となった。

旧カリキュラム		備考	新カリキュラム		備考
展開2	Comprehensive English (By Native Speakers) [2]	TOEIC 300 以上	展開1	Comprehensive English Fundamental	TOEIC 400 以上
展開1	Comprehensive English (By Native Speakers) [1]	TOEIC 400 以上		Comprehensive English Pre-Intermediate	TOEIC 450 以上

2.3. 観点別評価・到達度評価への流れと英語のガイドライン

2004年度から、授業の評価方法が観点別評価・到達度評価に変更された。それに伴い、シラバスにどのような「観点」について、どの程度までの知識や能力を身につけさせようとしているのか（「到達目標」）をシラバスに明示し、それぞれの観点で目標がどの程度達成されたかを評価することが必要となった。また、JABEEを代表する認証評価体制に対応するため、授業期間内における学生の到達度評価に関する根拠の開示（説明）が求められるようになった。

そのことにより、例えば出席を「欠格扱い」とするなら、出欠の記録を保存しておき、いつでも提示できる準備が必要となった。また、小テストを成績評価に使用するのであれば、その点数を記録しておくことが求められるようになった。単に課題の提出の有無だけでなく、課題の提出状況（どの程度きちんと課題をこなしているか、復習も行っているか、など）も考慮に入れるのであれば、その記録も残す必要がある。同様に、授業の到達目標を仮に1000語の単語を学習するとした場合には評価の項目にも1000語の単語を学習したかという項目を含む必要が

ある。また、それぞれの学生に関して、単語の学習に関する目標の達成度を評価し、その記録を残しておく必要がある。さらに、到達目標は、授業期間内の到達目標であるから、期間内に到達不可能な目標を記述したり、学生の評価に関する根拠を提示することが不可能な目標を設定することは避けなければならない。

英語部会においては、TOEIC準備、英語基礎、English Speaking について、観点別・到達度評価基準に基づいたガイドラインを作成致し、2004年度からその基準の適用を開始した（ガイドラインに基づいた上記授業のシラバスは大学教育センター（<http://www.epc.yamaguchi-u.ac.jp/>）のWEBシラバスに掲載されているので、ご参照下さい）。

3 言語センター（暫定）パイロット授業

3.1. 言語センター暫定委員会による英語のパイロット授業案策定

2003年2月26日の第1回言語センター暫定委員会（座長 渡邊主事）にて、言語センターの試行をするための具体案（パイロットプラン）を策定し実施したい旨提案され、協議に入った。協議の結果、以下のような内容で言語センター（暫定）パイロットクラスを検討することとなった（注：委員会構成メンバーは、丸本副学長、植村、岩部、何、宮崎、高橋、池園、平山、今田、富平、下寄、斉藤、和田各委員と今井委員（2回目から）であった。）

- ・実践的なコミュニケーション能力を養成することを授業目標とし、新しいタイプの授業を模索する。
- ・英語のアドバンストコースは、TOEIC400以上とし、職業指向型とする（実業向けTOEICが重要）。
- ・WBT（ウェブ・ベースド・トレーニング）を全学的に導入するための試行を行う。

数回の会議を経て、5月20日の第5回言語センター暫定委員会にて、以下の内容のパイロット授業を行うことが了承された（注：パイロット授業はフランス語と中国語についても行うことが決定された）。なお、パイロット授業は試験的授業であり、通常の共通教育の枠外であるため、履修した授業に対して単位の認定は行われなかった。

科目名	クラス	開設期	クラス	担当者	備考
TOEIC730	0	前期Q2 後期Q1 後期Q2	2 2 2	宮崎充保、山根和明 高橋俊章、山根和明 宮崎充保、山根和明	TOEICスコア400-595の学生対象
TOEIC860	0	前期Q2 後期Q2	1 1	岩部浩三 池園 宏	TOEICスコア600以上の学生対象
留学英会話	0	前期Q2 後期Q2	2 2	武本ティモシー 武本ティモシー	短期語学研修留学希望者を対象 (週2回)

3.2. パイロット授業の内容と結果

紙面の都合から、パイロット授業のうち、以下の4つの授業についてその内容と結果を報告する。以下、①はTOEIC730（宮崎充保）、②はTOEIC860（岩部浩三）、③留学英会話（武本ティモシー）（①～③はいずれも前期Q2）、④TOEIC760（高橋俊章）（後期Q1）のことである。

1) シラバス概要

①TOEIC730（宮崎充保）

◆1年次使用の『速習 TOEIC トータルトレーニング』の宿題であった Week 1～5のショートトークから毎回リスニングによる単語テストをする。参加者は Week 1 ならその中の5つのショートトークの解答原稿を参考にして、しっかり聞いて意味をしっかりつかんで聞いてくる。指導者は TOEIC に頻出する単語（熟語）を書く。ショートトークを聞かせ、順次止めては単語の意味を問い、都合25問テストする。

◆1年次使用の『速習 TOEIC トータルトレーニング』とテープを使って効率よく行う。テープの活用が大きい比重を占めるのでウォークマン型カセットプレーヤが必要（1500円～2000円程度の安いものでよいのでそろえること）。もちろん、MD にコピーしての使用でも差し支えない。

第1週 『速習 TOEIC トータルトレーニング』 Les. 2を使用して Parts 1, 2攻略テクニック
学習（参加者に自宅練習用として Les.2, Les. 3の音声をテープに収録して渡す（1本200円程度）

第2週 同上, Les. 2, Les. 3を使用して Parts 3, 4演習・解説

第2週 同上, Les. 5を使用して Parts 5, 6演習・解説

第4週 同上, Les. 6を使用して Part 7演習・解説

第5週 同上, Les. 7を使用して Parts 5, 6, 7演習・解説

第6週 模擬テストとしてハーフテスト実施・解答・レベルチェック

◆使用するもの：解答・解説が丁寧なので TOEIC 運営委員会発行の『公式ガイド&問題集 2』のテストの前半部を使用する。

②TOEIC860（岩部浩三）

◆すでに一定水準の英語力を持つ人ばかりであり、短期間に大幅なスコア・アップは難しいため、各自のスコアに50点積み上げを最初の目標とする。

◆教材は、情報コンセントから利用できる NetAcademy スタンダードコースを用いる。

◆個人のノートパソコン持ち込みを原則とする（曜日時間帯によってはパソコンを設置した演習室が利用できる可能性もあるので、ノートパソコンを持ち込めない受講生の申込みも一応受け付ける）。

◆8月4日に実施される TOEIC IP テストの受験を求める。

第1週：情報コンセントへの接続。 NetAcademy の使い方。 レベル診断テスト。

Listening・Reading 各5ユニット

第2週：Shadowing の仕方，速読の方法。 Listening・Reading 各5ユニット

第3週：レベルに応じた学習 Listening・Reading 各5ユニット

第4週：レベルに応じた学習 Listening・Reading 各5ユニット

第5週：レベルに応じた学習 Listening・Reading 各5ユニット

第6週：レベルに応じた学習 Listening・Reading 各5ユニット

③留学英会話（武本ティモシー）

◆短期語学研修はもちろん，一年間の留学期間ですら短いと感じられることが多い。このために，言語的及び文化的な違いによって生じ得る「カルチャーショック」などの問題を乗り越え，留学に「慣れる」までの時間を短縮することを目的とする。また，そのために必要とされる最低限の知識とサバイバル英語を習得する。

◆自己健康管理ができ，身の安全を確保し，法律や習慣・慣習を犯さないために必要な最低限の知識とサバイバル英語を習得する。

◆イミグレーション（入国審査）など渡航中に体験する場面やホームステイ，交通機関の利用など現地で初めて体験する場面において要求される英語表現を身に付ける。

◆留学先の授業で使われる英文法や英語教育に関する用語を習得する。

◆異文化コミュニケーションにおいて生じ得る「カルチャーショック」などの問題を乗り越えるために必要な最低限の知識を学ぶ。

第1回 「I am sorry I don't understand（すみませんが，分かりません）」「When is my homework due?（宿題の締め切りはいつですか）」など授業英語の紹介。 オンラインテスト。

第2回 授業英語の活用と実践。 自己紹介。

第3回 起承転結と英語論文の論理構造の違いや留学先の大学で提出を求められる英文の構造と書き方のキーポイント。 留学の抱負。

第4回 「verb（動詞）」「Adverb 副詞」「Perfect Tense（完了形）」「Relative Pronoun（関係代名詞）」など留学先大学の英語教育において使用される用語。 オンラインテスト。

第5回 ホームステイ先で使用する英語。 要求と礼状。

第6回 交通機関・道順を聞くための英語。 自宅への道順。

第7回 「Where is the nearest hospital?」「Will I need a tetanus injection（破傷風の予防注射が必要ですか?）」など健康管理のための英語表現。 オンラインテスト。

第8回 万が一外出先で危険な場面に合ったとき，また危険を避けるためのサバイバル英語。 オンラインテスト。

第9回 異文化コミュニケーション1：率直に自分の意見を発信し，相手に質問することの重要性と丁寧な表現方法。 自己主張。

第10回 異文化コミュニケーション2：習慣の違い。 習慣に関しての質問の仕方と自文化の説明方法。 日本文化の紹介。

第11回 現地の人々との付き合い方。Making friends in English。アンケート作成。
第12回 「I am traveling with a group from Yamaguchi University」「The purpose of my stay is for study」など山口を出発してから留学先に到着するまでに必要な英語。
オンラインテスト。
注：出張による休講のため、実際に行われた授業の回数は10回であった。

④TOEIC760 (高橋俊章)

◆1年次使用のTOEIC統一テキストのBasic Sentencesの聞き取り練習をパソコン上で行う(自宅で事前にTOEIC統一テキスト付属のCDを用いて聞き取り練習しておくことが必要)。パソコンのキーボードで英語の文字が打てる能力が必要(早く打てる必要はない)。
◆1年次使用のTOEIC統一テキストとパソコンを使って効率よく練習を行う。PCを用いてオンライン上で練習を行うこと、CDを用いて家で何度も音声聞いてくることを学習の基本とする。

第1週 『速習TOEICトータルトレーニング』のBasic SentencesをPCを用いてオンライン上で行う。Part 1をプリントを用いて練習。

第2週 PCを用いてオンライン上でBasic Sentencesやショートパッセージの聞き取り練習、リダクションの練習、Parts 1, 3の練習を行う。

第2週 PCを用いてオンライン上でBasic Sentencesやショートパッセージの聞き取り、Parts 3, 4の練習を行う。

第4週 PCを用いてオンライン上でBasic Sentencesの聞き取り、文法(名詞・冠詞、基本文型、修飾語、時制、準動詞、受動態、接続詞、関係詞、比較、助動詞・仮定法、代名詞、前置詞)、Parts 4, 5の練習(解答時間制限付き)を行う。

第5週 PCを用いてオンライン上でBasic Sentencesの聞き取り、文法確認テスト、Parts 5, 6, 2, 3の練習(解答時間制限付き)を行う。

第6週 模擬テスト(フルテスト実施)(後日、解答・レベルチェックの結果を郵送)

◆使用するもの：解答・解説が丁寧なのでTOEIC運営委員会発行の『公式ガイド&問題集2』のテストの前半部を使用する。

2) 参加学生数

- ① 9名
- ② 7名(1回目の登録時12名)
- ③ 19名(1回目の登録時46名)
- ④ 5名(1回目の登録時8名)

3) 開講時期、回数

- ① 前期Q2, 6回
- ② 前期Q2, 6回
- ③ 前期Q2, 10回(週2回)

④後期Q 1, 6回

4) 結果

①履修した学生のうち、TOEICデータで結果を確認できた学生は4名。1年生(2名)はわずかに向上(5点と15点)。上級学年の学生(2名)は、英語学習のブランク期間が長かったためか得点の向上はみられなかった(-5点と±0点)。

②N/A

③履修した学生のうち、TOEICデータで結果を確認できた学生は15名。TOEICの得点が50点以上上昇した学生が3名いたが、得点に変化がほとんどない学生(7名)や45点以上前回スコアを下回った学生(5名)がいた。

④履修した学生のうち、6月のTOEICと11月のTOEICの両方を受験した学生が3名いた。成績を比較すると、全員の得点が向上していた。得点の伸びは、55, 70, 125点であった(残りの2名のうち、1名が2月のTOEICを受験していたので、参考のため6月と比較した。得点の伸びは5点であった)。

5) 担当者の授業等に関する感想等

①単位にならないにもかかわらず、受講希望者が2桁出た。アドバンスト・コースに対する潜在的なニーズはかなりあると思われる。

②ただ楽しいだけの授業は行わなかった。そのため学生からは(ボランティアで参加しているのに、)なぜきついことをさせられるのか」という声も聞かれた。履修者数は当初の12名が7名に減少したが、最後まで残っていた学生にとっては留学へのよい準備となった。

③単位に関係ない授業のため、学生に予習・復習を求めることが困難(学生への強制力はない)。単位を付与しないため担当者の力量が求められる。

④コンピューターを用いた授業であり、個人個人のペース、効率よく練習を行っていくため、通常の授業で扱う2倍程度の内容量を無理なくカバーすることが出来た。一方、授業中、時折、ポイントとなる点を説明する以外には、特に教師とし何もすることがなく、授業をしているという感じがしなかった。ただ、学生は1コマの間集中してリスニングの問題に取り組みなければならないため、1コマの授業終了時には相当の疲れを感じているようであった。

6) 改善箇所等

①現在では、NetAcademyが自宅から利用できるようになっている。これは大きな追い風になる。当時、不可能であったことが残念。

②前もって学生に授業の内容をよりはっきり説明すること。宿題を毎回だすこと。WBTを利用して授業内容のサポートを行うこと。

③発音(特に、リエゾン、リダクションなど)を含め、TOEICの問題そのものに関する繰り返しの練習や指導ができた。個別的な指導が可能であった。

④途中から、学生の意見を取り入れて、解答時間制限をCGIを用いて設定し。このことにより、解答時における緊張感が生まれ、より集中して課題に取り組むことが必要となった。一方、解説ページを用意するなどの点、各設問に対するヒント機能を提供する点においては課題が残った。この点を今後改善して行きたい。

7) 学生の意見等

①N/A

②学生1「これほど自分が英語を使うこともめったにない。」、学生2「こういう形式の授業は始めてだったので楽しかったです。ただ、自分の英語力のなさのせいで、うまく会話できないのがよかったです。」、学生3「I could learn many things and enjoy speaking English.」、学生4「知らない人ばかりだから、(逆に)英語で話すことができたと思います。1時間は毎回あっという間でした。」、学生5「最初は英語ばかりの授業についていけるかどうか不安でしたが、毎回とても楽しく受けることができました。」、学生6「実践的な英語が学べてよかった。週2回あったのでよかった。」、学生7「英語だけで話しがはじまったことに驚きました。」

③N/A

④学生1「なかなかよい授業でした。このやり方で授業をするとかなり効率がよいように思えました。例えば、リスニング45分集中の練習になる、問題をたくさん解く、TOEICの問題に慣れる、時間の効率が良い、等です。ただ、文法の解説が一言あってほしい」、学生2「時間制限がある方が集中できた。自分としては語彙を増やしたいので解説プリントを配ってほしい。」、学生3「今回の授業で時間制限を設けてくださったので、いつもよりも集中してすることができました。時間を気にしながらするほうが、(疲れるのですが)集中してできて、本番により近い状態でできるなあと思いました。」、学生4「basic sentences などなど、繰り返し聞いて答える、という問題は以前よりも聞き取れるようになったと思います。でも、実際にテスト形式でやってみるとさっぱりで、1回聞いただけでは何がなにやらという状態です。」学生5「いつでも、パソコンがあれば練習できて、とてもいい授業です。どんどん活用していきたいと思います。」

8) その他の気づき

①N/A

②90分の授業を一時間ずつ週2回に分けて行くと、90分の授業2回分と変わらない仕事量と同じになる。学生にはよいことだが、教師には負担が大きかった。

③・アドバンストコースだから、TOEICの設定するランキングに倣って、470点以上(Cランクの最低)に履修者を限った方がよい。

・400点以上の学生が対象なので、質問が通りやすい。答えも比較的スムーズに帰ってくる。400以上の受講生であるだけに文法事項の理解も早い。

④ N/A

3.3. パイロット授業に関する考察

短期間に50点以上の向上が見られた学生がいたこと、アンケートにおける学生の好意的意見を考慮すれば、パイロットクラスを引き続き行っていく意義は充分にあると考えられる。

ただし、パイロット授業の成果は、クラスごとに結果が異なっていること、データ数が少ないことから、最終的な結論を出すためには引き続き調査を行っていく必要がある。

4. ピア レビューの必要性

パイロットクラスは単位取得に関係のない授業であるため、授業の履修は学生の判断でいつ

でも取りやめることが可能であり、学生の興味や意欲を維持するためには、授業の質的改善にも取り組む必要がある。以下のピア レビューは、授業改善のために試行的に実施したものである。

また、そのため、量的な分析ではなく、授業観察に基づく授業の質的な分析を通して、学生アンケートからでは入手できない改善点を見いだすことを目的とし、ピア レビューを行った。

ピア レビュー実施報告

実施日：2003年7月22日（火） 7／8時限

対象クラス：言語センター パイロットクラス（宮崎充保先生）

出席人数：11名出席

ピア レビュー 報告者：高橋俊章

授 業 内 容	コ メ ン ト
<p>4：10</p> <p>単位取得に関する説明がされた。 この授業を取っても単位が取得できるわけではありません。あくまでも個人個人の英語の能力の向上を目指すための授業です。600点以上取れば単位の取得も出来ます。この授業の目標は、Bランク（730点－830点）への踏み台に近づくことを目指すものです。</p>	<p>パイロットクラスの性格やカリキュラムでの位置づけを学生に理解させる必要性があるかも知れない。</p>
<p>4：15</p> <p>今日の授業内容の説明がされた。</p> <p>1) (TOEIC準備のテキスト 自習 CD Week 4の) Short Talks を教材に用いた聞き取りの練習（発音，リエゾン，短縮を含む）を行う。細かいことは言いません。</p> <p>2) Part 4の練習。何度も繰り返し練習することが重要です。 答えがわかっているでもいいのです。 同様にPart 2とPart 3も繰り返し聞いていいのです。 むしろ、答えがどこにあったかわかるようになるまで聞くといいのです。 違う問題をやっても少し効果はあるでしょう。しかし、同じ問題を繰り返し聞いていいのです。</p> <p>3) Part 5, Part 6への対処と練習を行う。時間の自己管理が重要です。</p> <p>来週行う Part 7では、さっと流れをつかむことが重要です。さっと読んでどんな目的で、どんな内容が書かれているかがわかればいい。</p>	<p>当日の授業内容とそのねらいを予め学生に伝えることはとても重要なことだと考える。</p>

<p>速聴、速読と同じ要領です。時には、テープについて朗読するのもよいでしょう。</p>	
<p>4 : 21</p> <p>1) の練習。問題プリントを配付。CDを流して聞き取り練習をおこなっていく。問題プリントには Short talks の中から、ところどころを一文単位で抜き出して作成した問題 (25問) が印刷されている (以下の 1.~25)。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>1. the periodic health check-up _____ October 25.</p> </div> <p>T : ○くん。 それは無しだよ。本番ではもう一度聞けないのだから。</p> <p>schedule の設定をするときに使う前置詞だね。 book the restaurant for ときにも for を使うね。 答えは, scheduled for, スケジュールの変更をするときには, re-をつけて re-schedule と言います。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>2. check your blood pressure, and _____ _____.</p> </div> <p>T : ○くん。 そう, take a bood sample. blood に a はつかないけど, sample だから a がつくね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>3. who will listen to your heartbeat _____ _____.</p> </div> <p>T : ○くん。</p>	<p>学生に集中して聞くように指示することは重要である。</p> <p>例文はセンテンス単位で与えた方がどのように schedule と前置詞 for が使われるのかがわかりやすいのでは？</p> <p>blood は one blood, two bloods のように数えられません。だから, a blood と言えません。しかし, sample は one sample, two samples のように数えられます。それで a がついてます」のような説明の方がわかりやすいのでは？</p>

S : With a しかわかりません。

T : それだけ聞ければいいですよ。道具の with だね。
'stethoscope' は聴診器のことだね。

4 : 25

4. This will give the doctor _____
_____ about the condition

S : detailed information

T : そうです。どういう意味ですか？

S : 詳しい情報。

5. Wasn't it though! It _____
_____ a dance boom right away, too.

T : touched off. 決まり文句ですね。どういう意味ですか？

S :

T : これは kick off の kick が touch に代わっただけ。

全然関係ないこと言うけど昔の人はくわばらくわばらと言いますね。
イギリス英語では touch wood, アメリカ英語では knock on wood と
言います。

6. that many elderly people are _____ .

T : taking part in it. これはいいですね。どういう意味です？

S : それに参加する。

7. Dancing enhances our health _____
_____, and I believe ...

T : both physical ? both が聞こえたら,?

S :

T : both physical and になりますね。both だから.... ?
physical ときたら ?

S :

T : both physical and mental になります。

近年、高校では文法用語はあまり扱わない。従って、「道具の 'with' 」と言われても学生にはピンと来ない可能性がある。

簡単な表現だが、学生の理解度チェックを行うことはとても重要である。

この説明は省略することが可能であろう。

「both A and B」 という型が学生には理解出来ていないために、教師がヒントとして意図したものが、学生にはピンと来なかった可能性がある。

8. there is saying “ _____ ,”
isn't there?

S :

T : ○さん。

S :

T : It takes two to tango. こういう決まり文句を知っているとい
いのです。そんなの知っているのということになるのです。
こういう表現を使えば、ややこしいことを言わなくてもいいので
す。

9. about the States was _____
_____. It seems

S : the number of divorced people

10. They always _____
their ex-wife and ex-husband.

T : ○さん。

T : △さん。

T : □さん。

S : わかりませんでした。

T : referred to. Would you repeat? referred to. I referred to him.
のように使います。紹介状は a letter of reference と言います。

11. If your father or mother remarries, and their _____
_____ has a child from a previous marriage

T : ○さん。

S :

T : △さん。

S : わかりませんでした。

T : □さん。

S :

何と言ったか聞き取
れなかった学生がい
たようである。また、
意味の理解の確認を
するとよかったので
は？

Which companies
did he refer to in his
speech? のような例
文の方がどのように
refer to を使用する
のかわかりやすいの
では？

T : 法律用語ですからね。 new spouse. spouse は husband や wife のことを言うのですね。

ところで発音はスパウズですか、スパウスですか？

スパウスと発音する人とスパウズと発音する人の両方がいますね。

どちらにしても、アクセントの置かれなところですから、アクセントトゥする必要はありませんね。

12. they sometimes _____ and
get a divorce.

T : 君、今日はまだあたってなかったよね。

○くん、何て言っていた？

S :

T : loose patience. どういう意味？

S :

T : 勉強して来なかったね。

S : 勉強しましたよ。

T : 忘れたんだね。

13. A well-planned vacation is _____
_____.

S : a great deal of work.

T : a great deal of ~で決まり文句。たくさんという意味で覚えてください。

14. you're required to compare, _____
_____, and finally you must ...

S : refine the travel plans.

T : dark // の練習をしましたね。 refine って何ですか？

S :

T : 要するに洗練していく、もっと詰めていく。

spouse 自体を知らない人が多かったようなので、この質問は難しかったかも知れない。

冗談等で和ませることは重要であろう。

学生にいつあたるかわからないという緊張感を持たせることは重要なことである。予習を行うことが必要だというメッセージを与える意味で重要（もちろん、学生を傷つけない配慮は忘れてはならない）

15. you must select one plan _____

S : from among all the possibilities

T : the がついているのですべての可能性の中からという意味になります。

16. involves sitting down and _____
a proposed budget

T : ○さん。

T : △さん。

S : working out.

T : working out ですね。 work out ってどういう意味ですか？

S :

T : work out というのは、何かをはじき出すんです。

working out a proposed budget よろしいですか。

17. begin to feel tired to take a vacation _____
_____ for it.

T : after all the work of preparing after all って言い方ありますね。
after all the work of preparing. 気持ちとしてですね、これだけ
やったのに、これだけ準備をやったあげくにといい感じが出てく
る。

after all is said and done 何もかも言って、やったあげくにといい
う言い方もします。

学生は一生懸命メモ
していたが、何と先
生が言ったのか聞き
取れなかった学生も
いたようである。

18. I've sent hundred of _____
_____, but I haven't found a job yet.

T : ○さん。

S :

T : △さん。

S : 何とか vacation

T : もうちょっと。

job applications ですね。 どういう意味？

S : わかりません。

T : 仕事を求めて、それに応募すること。動詞で言うと、
apply for a job

19. my companies are still _____
_____ women.

T : これは大切な言葉。○君。

S : 聞き取れませんでした。

T : 大切な言葉だよ。 discriminating against
discriminate だけだと「区別する」, against をつけると「区別,
差別する」

20. some female students experience _____
_____ in the interview.

T : これはもうわかりますね。○さん。

S : セクシャル ハラスメント。

T : ちゃんと言って。

S : sexual harassment.

T : △君。綴りが書けるかどうか書いてみて。いそいで、書いて。時
間があまりないから。

21. Such companies _____
by the Equal Employment Opportunity Commission

T : ええと、○くん、

S : could be soon なんとか

T : could be sued. アメリカ人の好きな言葉なんですよ。ね。
I will sue you. よく言います。訴えるぞという意味です。

これくらいの簡潔な
コメントが、スピー
ド感のある授業とす
るためにはよかった
と感じられた。

文字で書くと実際の
印象と違ってきつく
感じられるかも知れ
ない。しかし、「い
そいで…」の言葉
にきつさは感じられ
なかった。

22. you'll find a warning on it saying: " _____
 _____ "to your health."

T : ○くん。

S : harmful?

T : hazardous.

どういう意味ですか？

S :

T : 有害って言っているのですね。

23. people have become _____
 _____ their health

S : concerned about.

T : concern は心配しているって言うこと。

24. it quickly became _____
 from other countries

S : additional?

T : addiction. addiction というのは大切な言葉だね。どういう意味？
 TOEIC 教科書の後ろにもかいてある。

S :

T : an addiction 中毒 という意味。

I have an addiction to ice cream. ってどういう意味？

病みつきラーメンってありますね。addiction の形容詞はaddictive, 名詞だと an addiction among smokers のように使います。

英語では数えられるものと数えられないものを区別してください。 a と書くと個数観念が出てくる。 でも1つの中毒になるってわかんないね。an addiction は中毒物質ってなるわけだね。

それからこれはよく言うけれど, I ate chicken. I ate a chicken っていうと口を血だらけにして鶏を一羽食ったという意味。鶏肉となるとかたまりとしか感じられないですね。

そういう時は I ate chicken.

学生はおよそ体に悪いという意味の形容詞が入ることがわかっている。それでも聞き取れなかったのは hazardous という単語を知らなかったからだと思われる。学生の単語の知識量を増やすことが重要かも知れない。

冠詞を理解することは重要、そのためには可算・不可算の区別をきちんとすることが重要である。

ただし, an addiction のような抽象的な単語が可算となることを理解するのは上級学習者でも困難なことが多いため、学習者が本当に理解できているか確認しながら説明するとよい。

<p>25. and if you are _____, not only your health, but also ...</p> <p>T : a regular smoker ですね。 a regular smoker になると cigarette addict になるわけですね。</p>	
---	--

<p>4 : 58</p> <p>2) Part 4における以下のような説明の後、練習を開始。</p> <p>今日、言いましたように、Part 4の問題を配ります。 答えは知っているもちっともかまわないんです。 4秒を解答に割いて、残り4秒は次の問題を読みます(先取りします)。 また、Direction (60秒)の間にQ1~Q4くらいの問題を先取りして読んでおきます。</p> <p>では、いきます。</p> <p>(『Comprehensive Preparation for the TOEIC Test』 pp.42-44の問題(Q81-Q100)をCDで再生する。学生は問題に取り組む)</p>	
---	--

<p>5 : 10</p> <p>これ、配りますから、答え合わせをしてください。</p> <p>問題は全部聞かなくてもわかることが多いのです。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>88. What is advised?</p> <p>(A) To wait</p> <p>(B) To sell</p> <p>(C) To buy</p> <p>(D) To diversity</p> </div> <p>『Comprehensive Preparation for the TOEIC Test』 p. 43</p>	<p>配布プリントの手書き文字はもう少し丁寧な文字で書かれていると読みやすくてよいのではないだろうか？</p>

T : 88 番なんかは、本文中で hold on to って言っているんです。
 答えは (A) ですね。
 単なる言い換えで答えをわからなくしていることがあるんです。
 言い換えってしょっちゅうあるんです。
 細かく説明していくと2時間、3時間かかりますからよく読んで
 ください。

T : 3回目ぐらいだろうけど、何問できた？
 S : ○問。
 T : 君は何問できた？
 S : 12問。
 T : O K。6割できればいいんです。
 Part 4 はまとめて答えられる。区切りごとに答えなくてよい。
 それで余裕が生まれるのです。

それから、聞き取りが出来るようになるためには発音をよくしなければいけない。そして、いろいろな表現を覚えていなくてはならない。

3) Part 5, Part 6 への対処と練習を行う。

T : リーディングセクション、最後までいきましたか？
 駆け込み？間に合わなかった？
 S : (首を縦に振る)
 T : 下手すると10問位残してしまいます。
 テープの問題はテープのペースに合わせるだけですが、reading section は自分で時間配分を考えなくてははいけません。丁寧にやっているとあとでとんでもないしっぺ返しを食らうことになるんです。

Part 5	Part 6	Part 7
40問	20問	40問
15分	10分	40分

Part 5 は15分、Part 6は10分と区切って行きます。
 テキストを開いてください。
 今日は Part 5と6についてやっていきます。

5 : 23

T : 文法の問題と単語の問題が混ざって出てきます。
言葉をひくときも自動詞なのか他動詞なのか調べるんです。
単語だけの知識って言いますと単語の使い分けです。

単語の使い分けというのは、たとえば、economical と economic
の使い分けです。

economic 経済上の

economical お金が節約できる

だから economic hotel って言ったらおかしいですね。

Are you an economical student? パッパパラパー？

S : (首を横に振る)

T : そういう知識を知っていないといけない。 そうなると
Part 5 と Part 6 を分けて考える必要はない。

(『Comprehensive Preparation for the TOEIC Test』の)
pp .78-79 をめくってください。

問題を日本語に訳なんかしちゃだめだよ。

101番 はちょっととばすよ。こんなのに1分も2分も使っていて
はダメ。(C) なら (C) としておこう。101番には○をつけてお
こう。102番から行きましょう。

102. _____ the offer, the more pressure we'll
have to accept.
(A) The greatest
(B) The greater
(C) More of
(D) Most of

T : 選択肢を先に見て、the more pressure まできたら「the 比較級,
the 比較級」がつぎ出されました。
まず選択肢をみましたね。そうすると、原級、比較級、最上級の
問題だなということが検討つきますね。
the more ... とくると比較級がくることがわかりますね。

質問を使って、生徒
とインタラクション
を持つことで、学生
の理解度をチェック
するとともに一方的
に教師が話すだけの
授業になることを避
けている。

103. In order to find the ratio, divide one number _____ the other.
- (A) to
 - (B) in
 - (C) over
 - (D) by

T : 103は前置詞の問題ですね。

「one ... the other」がありますね。

もう一つ前に行こう。

divide one number divide ときたら

○さん。 divide ?

S :

T : ○さん。 divide まできたらわかんなくてはならない。

答えは divide ... by です。

104. Weren't you surprised that he cut his hair by _____ ?
- (A) himself
 - (B) him
 - (C) hisself
 - (D) his

T : 104, 選択肢を見て何を聞いているの？

S :

T : 代名詞の使い方ですね。

He cuts his hair by himself

Won't you surprised なんか読むなど言っているわけではないですが、読まなくても出来ますね。

105. If it is _____, we will postpone the meeting until next week.
- (A) accordingly
 - (B) accessorized
 - (C) acceptable
 - (D) accountable

T : 105, 何を尋ねていますか？

「one ... the other」
や「divide ... by ~」
がパターンとして学
生に定着していない
可能性がある。

そのような時には、
表現の意味や使用法
に関するより丁寧な
解説が必要かも知れ
ない。

質問の意図が学生に
はわかりにくかった
のでは？ 「by ~」
で「自分で (一人で)」
の意味になるものは
何？ と言えばわかり
やすかったのでは？

S :

T : 形容詞か副詞の問題だろうということがわかりますね。

if it is 従属節ということですね。

accordingly で完結していないといけないことがわかりますね。

acceptable, accountable。なぜ (D) はいけない？

S :

T : We should be accountable for に対して説明責任がある人間が主語に来ることがあるとわかれば900点取れますね。

106. The secretary _____ the travel agency
make the arrangements.
(A) asked
(B) got
(C) had
(D) hired

T : 106 は何をきいているの？

S :

T : The secretary ... make their arrangement. make が原形ですね。

to がついてないような原形が来るものは1つしかない。

ask somebody to do something. had はどうでしょう？

had は to がいらぬ。中程度の問題ですよ。

107. The first _____ airmail service in the world
started on May 15, 1918.
(A) continuous
(B) continuation
(C) continuity
(D) continuum

T : 107. 形容詞か名詞が入ればいいんだな。

The first _____ air mail service 。下線部には「続く」という意味の語が入る。

airmail service の前に入るのは形容詞だから形容詞が前にこなければ難しい。continuous ですね。

学生に質問を何度かしているが、学生から答えが返って来ない場合が多い。質問を A or B などの選択式質問に変えるなどして学生から答えを引き出すことが理想である。

何をきいているのという質問は漠然として答えにくいのでは？

教師が語るのではなく、学生から答えを引き出すことが理想。

<p>101. There were two finalists for the position, but _____ agreed to the salary offered. (A) both (B) all (C) neither (D) either</p>	<p>教師が一方的に説明すると学生は眠くなることが多い。</p> <p>教師の説明を簡潔にしてスピーディーに問題をこなしていくか、学生と質問を通してインタラクションを持つことが重要かも知れない。学生から答えを引き出すことも重要であろう。</p>
<p>T : 101, ねむくなったか? 君に集中的に質問するよ。</p> <p>この問題は ... agree to the salary だけ読んでも答えられません。もう少し前から行きます。 There were two finalists.</p> <p>all は2つの時には言わない。 finalist スポーツのときよく聞きますよね。 finalist は決勝戦出場者。ここでは, two finalists だから、二人の finalists がいるんですね。 but が来たら矛盾を表すときに使うんですね。 both A and B は両方成り立つときに使います。 but の後は否定の概念が続きますね。 そうすると ... neither ですね。 A but B とくれば反対の内容が来なければならない</p>	<p>解説, 解答がプリントで配布された。詳しい解説付きであった。</p> <p>自習等の指示も適格にされていた。</p>

全体的なコメント

非常によく準備された授業で、授業の進行もスムーズであった。 Short Talks を利用した聞き取り練習はテンポもよく、学生も適度な緊張感の中で問題に取り組んでいた。Part4, Part5, Part6 (特に Part5) に関しては、教師のやや一方的な解説となる傾向にあり、学生の緊張感や興味を低減させたかも知れない。教師の解説は必要最低限かつ簡潔で分かりやすいものにするか、逆に、十分時間をとって学生から答えを引き出すような相互的なQ & Aが必要ではないかと感じられた。また、文法用語や表現のパターンは学生が知らない可能性もあり、実際の言語使用場面を考慮した適切な例文の提示や意味の説明を含めたより具体的に丁寧な説明が必要かも知れない。教師の熱意と指導における必要な厳しさもあり、全体的に適切な内容の授業であったと考えられる。また、教室の雰囲気はアットホームであった。

5. WBTへの取り組み

2003年度の共通教育の英語授業においては、TOEIC指導や実践総合英語の一部において、また、(暫定)言語センターの英語授業においては、TOEIC730やTOEIC860の一部において、WBT(web-based training)を用いた授業(自習を含む)を行ってきたし、今後も行っていく予定である(注:2004年度から、(暫定)言語センターは外国語センターという名称となり、TOEIC730, TOEIC860 はそれぞれ、Advanced TOEIC B, Advanced TOEIC Aという名称に変更された)。

特に、2004年度に新設された English Speaking の授業(すべてのクラス)において、WBTを用いた授業が実施されることになっており(上記, 2.2参照)、現在、英語分科会(注:2004年度以降の英語部会の名称)の武本ティモシー先生が、その授業のために必要なWBT教材の作成を行っています(<http://www.eigodaigaku.com/moodle/>)。

WBT教材の作成は、moodle(<http://moodle.org>)というオープン・ソースのWBTソフトを用いて行っている(<http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/guides/eduaid/moodle/index.phtml>も参照のこと)。このソフトにはクイズモジュールが含まれ、簡単にクイズを出題することが可能である。また、ソフトには、クイズの採点を自動的に行う機能に加え、挑戦回数や制限時間を設定する機能、各問題に対するヒントや解説ページを作成する機能、クイズの出題順序をランダムにする機能が含まれている。

その他、教材のアップロード機能を用いて教材として提示したい文章(ファイル)をホームページの所定の場所にアップロードすることが可能であり、また、フォーラムを設置して、学生や教師間で質問や意見を交換する場とすることが可能である。

さらに、学習者の学習履歴管理機能があり、学習者の解答所用時間、正解率、問題にチャレンジした回数などをWEB上で一覧出来、また、学習履歴をcsvファイルで出力し、エクセルで分析することが可能です。

このように Moodleはとてもすぐれたソフトであるが、教材の作成はすべて自前で行っていく必要がある。広島市立大学の場合には、リスニングとリーディングの教材を合わせて4000題程度の問題を準備してWBTを用いた英語教育をスタートしたことを考えると、山口大学でも



同様の体制を整える必要があると考えられる。教材作成には膨大な時間と労力が必要となることを考えると、WBTを用いた英語教育を行う初期環境を短期間で整えるためには、既存の市販教材とそれに対応したオーサリングソフト（教材作成ソフト）（例えば、アルクの webclass や ALSI の Smart-HTML というオーサリングソフトとその対応教材）の導入が現実的であり、現在山口大学でそのことが検討されている。ただ、万人のための教材は、個々の大学のニーズに合わないことも考えられ、山口大学独自の教材作成も今後検討していかなければならない課題となっている。

6 最後に

英語教育改革はどの大学でも主要な関心事となっていており、変化も急速である。英語教育の質が向上し、それに伴う成果を得ることが学生だけでなく、大学全体にとっても決定的に重要な問題となってきている。

その中で特に重要なことは、そのような改革の鍵となる英語教員のサポートであり、それを失えば、改革の流れは勢いを失うことになるであろう。

最後に付け加えた報告は、2003年度、TOEIC準備の授業において、宮原先生と鴨川先生が共同で行った試みである。ピア レビューとしても重要であり、また、積極的な取り組みの例として参照して頂けたら幸いである。

「TOEIC準備」授業 一つの試みについて

人文学部 助教授 宮原一成
 経済学部 助教授 嶋川啓信

1. 着想の経緯

今年度（2003年度）は、共通教育の「TOEIC準備」が始まって2年目である。初年度から、この授業には本学経済学部の宮崎充保教授の筆による統一教科書が採用されていたが、今年度はその教科書にマイナーチェンジが施されることになった。マイナーチェンジと言っても、この授業が最重要視する「自学自習」の徹底という観点からすると、かなり大きな変更だった。別冊で「自習課題ノート」を各学生に持たせるということ、そして従来重視してきた予習に加え、復習も評価基準に算入するという点、この2点が主要な変更点である。

昨年度の自習課題の点検方法は以下のような流れだった。

- 1) 毎週6日分の予習を学生に要求し、成果をレポート用紙で毎週1回提出させる。
- 2) 提出と引き替えに、その週の自習課題の解答を載せた分冊を学生に渡す。
- 2) 教員が持ち帰って点検し、一両日中に共通教育教務係の専用ボックスに返却する。
- 4) 学生が各自ボックスから点検済みのレポートを引き取る。
- 5) 学生は、引き取ったレポートを、分冊解答集と照らしあわせて復習する。

これはこれで完成された流れだと思う。ただし、3) から5) までの手順を踏む中で、どうしても1日間程度の時間差が生じる点が、若干気になっていた。復習は、記憶がまだ新しいうちに行えば、それだけ効果的だからだ。

それに加えて、平成15年度の「TOEIC準備」では、復習を厳密に点検するかたちへと教科書改訂がなされることに決まり、学生は前年度以上に真剣な復習をしなければならなくなった。予習に週6日かかるうえに、みっちり復習も、ということになれば、復習用にも1日分の時間を与えた方がいい。そのためには、3)～5) での時間差を解消しなければならない。特に「自習課題ノート」制度が導入されるので、学生はノートが返却されるまでは自習できないわけで、教員の手元にノートがとどまる間は、学生にとって無為な時間となる。できることなら「自習課題ノート」を学生に即日返却してやりたい。平成15年度用のシラバスを提出した後になっても、その解決法を思案し続けた。

2. 授業形態の工夫

思いついたのは、単純な方法である。1つのクラスを複数教員が持つということであった。1人の教員が授業そのものを執り行い、残りの教員が同一教室内でノート点検に専念する。そうすれば、当該授業時間内にノート点検をすませ、授業の終わりには学生にその場でノート返却もできる。返却されたノートと配布された別冊解答集を使って、学生は予習復習にその日から取りかかることができる。週7日をフルに活用できるのである。

さらに複数教員が同一教室内にすることで、学生にも教員にも好ましい緊張感が生まれるこ

とも期待できる。一種のピア・レビューのような効果もあるかもしれない。こういうアイデアに基づいて、2クラスを合併して2名の教員が担当するという授業形態を着想した。

突然授業形態を変えるという点に懸念がなかった。しかし平成14年度にも一時的な合併授業は行われていた。「TOEIC準備」授業は統一シラバス・統一課程に基づいて実施される授業だから、各クラスの進度をそろえなければならないということで、休講を余儀なくされる場合には他教員に依頼して、その週だけは合併授業にするという工夫がすでにあっただのである。その例を発展させたかたちと見れば、全7週をすべて合併授業にしても大きな支障はなからうと判断した。もちろん、学生には初回の授業時に縷々説明することにした。

成績評価方法については、大方のところは統一シラバスに規定されていたが、「自習課題ノート」を提出はしていても出来が不十分である場合の取り扱い、各教員の裁量に任されていた。その基準についても、まえもって打ち合わせて取り決めた。

3. 授業実施の実態

鴨川が担当する4コマの「TOEIC準備」のうち、宮原と同時に重なる3コマについて、合併授業を実施した。教室は、収容人数の多い鴨川の44番教室を使用することにし、教室と授業形態の変更については、共通教育教務係を通じて掲示により学生に通知しておいた。合併の結果、月曜7-8限のクラスは75名、火曜5-6限が84名、火曜7-8限も84名の体制となった。

全7回の授業のうち、初回についてはノート点検がないので、2人の教員が半々に説明を担当した。その後は、2・4・6回目に鴨川が、3・5・7回目に宮原が講義を行い、あいている方がノート点検に回った。教室最前列の机に陣取って、授業開始と同時に回収したノートを一冊一冊チェックした。ノート点検の様子をなままで学生に見せることで、自分たちの予習復習がきちんと評価されているという認識を、無言のうちに学生に与える心理的効果もあったように思う。ただし、学生に背中を向ける体勢になった点は、後から考えると改善の余地があったかもしれない。ノート点検教員も学生と向かい合う位置に座った方が、「2人の教員に見られている」という実感をより強くもたせることができただろう。

初回から、特に混乱なく授業を行うことができた。第2回の授業の終わりに、ノートを返却する際、学生が殺到して混雑するという問題点があったが、次回からは学籍番号順の10人ごとにノートを小分けして、返却用の机に配置するというやり方で対処できた。

2クラス分のノートを90分間以内に点検するのは、初めのうちは正直言って骨が折れた。しかし徐々に慣れていき、後半の3週ではノート点検を早く終えた教員が、ほんの数分間ではあるけれども、机間巡視をすることもできた。一方の教員が授業を行っている際に、もう1人の教員が私語をたしなめることもあった。チーム・ティーチングと呼ぶにはおこがましい、ささやかな実践ではあるが。

4. 学生からの反応、授業の成果

初回の授業で、合併授業にする意義と経緯を学生に説明したが、異議や反対意見は出なかった。「自習課題ノート」には質問や感想を書く欄が設けてあり、もちろんここも毎週チェックしたが、合併授業についての意見は、賛否ともに書かれることはなかった。

最終回の授業で実施した学生授業評価では、鴨川・宮原の両名を併せて評価してもらう形を取った。自由記述欄には73件の意見が寄せられ、そのうち17件が合併授業に関する評価だった。

「ノートがその日のうちに返却されるのがありがたかった」という意見が13件、「交代で教わるのが新鮮、複数教員の分担なので流れがスムーズ」が4件。否定的評価としては「教員が楽をするため以外の意義は感じられず、統率のとれていない時間帯があった」「2人で組んでやる意義がわからない」という意見が計2件あった。

後日それぞれの教員に渡された学生授業評価の結果を基に、合併した授業の分に関して再集計を行った。以下に項目ごとの指数を示す。

	1) 聞き易い話し方	2) 明解な説明	3) 教材、板書	4) 視聴覚メディア
月7-8：(回収70名)	3.81	3.64	3.91	3.74
火5-6：(回収79名)	4.13	3.84	3.89	3.49
火7-8：(回収77名)	4.13	3.75	4.05	3.49
TOEIC 準備 平均	3.78	3.68	3.95	3.40

	5) 質問機会	6) 教員の態度	7) シラバス準拠	8) 内容理解度
月7-8：(回収70名)	3.16	3.74	4.49	3.29
火5-6：(回収79名)	3.40	3.97	4.36	3.52
火7-8：(回収77名)	3.33	3.91	3.98	3.36
TOEIC 準備 平均	3.44	3.68	4.14	3.31

	9) 集中できる雰囲気	10) 教員の熱意	11) 授業への満足度
月7-8：(回収70名)	4.24	3.90	3.19
火5-6：(回収79名)	4.22	4.16	3.52
火7-8：(回収77名)	3.84	4.22	3.42
TOEIC 準備 平均	4.27	3.86	3.35

1), 2), 6), 10) 等にそれぞれの教員が奮闘した跡も見られるが、9) に出ているように、どうしても大人数クラスの弊害をカバーしきれず、11) の満足度がそこそこにとどまった、というところだろうか。今回の工夫には大した効果はないと見ることもできるだろうが、いずれにせよ、1 回きりの実施で評価を固めるのは早計かもしれない。

ちなみに「TOEIC準備」の成績は、下表の通りであった。

月曜 7 - 8 時限	登録75名中、合格72名	A:50、B:22、C:0、F: 3
火曜 5 - 6 時限	登録84名中、合格80名	A:48、B:25、C:7、F: 4
火曜 7 - 8 時限	登録84名中、合格83名	A:46、B:34、C:3、F: 1

5. ピア・レビューの「真似ごと」

「TOEIC準備」は分刻みで授業計画が練られており、教科書の説明記述も多弁なものだったから、各教員が個性を発揮する余地は多くない。そう思っていたのだが、実際他人の授業を間近で見ると、授業進行の手際などかなりの相違があるものだと実感した。

ピア・レビューと銘打つほど大仰なことはやらなかったが、それでも相手の授業方法について感想を言いあって議論することは授業ごとに行った。授業を時間内に余裕を持って収めることと教える内容の厚さ(薄さ)とのバランスの問題、板書の工夫、学生に向かって話すときのセンテンスの長さ、私語が生じたときの対処法、教科書にない例をどれほど独自に加えるべきかという問題、自習課題ノートにつけるコメントの書き方など、意見の食い違いも相当あった

が、議論することでお互い資するところが大きかった。

逆に反省点としては、自習課題ノートの作業ぶりに問題がある学生について、もっと頻繁に情報伝達をするべきだったことである。予習復習が不十分な学生を発見したときには、具体的に氏名を伝えあい、教員同士で共通認識を持って対処することが望ましかった。

6. 最後に

今回の試みは、ふと思いついたアイデアを気軽に実践した結果である。統一シラバスからはやや外れた形態であったが、学生評価の7)の指数を見れば、その点はあまり気にしなくてもよさそうだ。教育観・授業観の似通った教員の間で自然に話がまとまって実現した試行だったので、未体験の事柄を模索しながら進むかたちでも、展開は予想以上にスムーズだったように思う。その気のない教員を機械的に組み合わせたりすると、今回の試行よりも悪い結果が出るかもしれない。その意味では、大々的な取り組みが期待できるような「パイロット・クラス」とは言えないだろう。しかし、担当者個人としては、この試みにはかなりの意義があったことを実感している。

(大学教育センター外国語センター主事・教育学部 助教授)